# なら山よ

2015 春
SPRING

奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌
NARAYAMA
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

＜題字＞名誉教授　池田 桂鳳

特集

## 奈良教育大学の ユネスコスクール活動とESD

羅針盤

### 学生の県事業への提案・参加の取り組み
～授業の枠を越えて～

クローズアップ

### グローバル時代の市民を育てるカリキュラム研究
学校教育講座　橋崎頼子准教授

ラボ・レター

### 古文化財科学　金原正明研究室

なっきょん's CLUB 企画

### 授業紹介 ～初等教科教育法（図画工作）～

# ならやま

奈良教育大学 広報誌
NARAYAMA
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S SEASONAL PUBLICATION
<題字>名誉教授　池田 桂鳳

## CONTENTS

2 特集
奈良教育大学の
ユネスコスクール活動とESD

7 羅針盤
学生の県事業への提案・参加の取り組み
～授業の枠を越えて～

10 クローズアップ
グローバル時代の市民を育てるカリキュラム研究
学校教育講座　橋崎頼子准教授

13 ラボ・レター
古文化財科学　金原正明研究室

14 ひと・あれ・これ
門真市最大規模の小学校で教鞭を執る福田友樹さん

15 なっきょん's CLUB企画
授業紹介
～初等教科教育法（図画工作）～

17 留学生レポート
ハイデルベルク大学（ドイツ）　嶋田萌花さんとアイク サラさん、
ハーゲル アネカトリンさん、ツェントラー クリスティーナさん

19 キラリ☆奈教生
トライアスロンで世界に挑戦!

20 ブカツ魂!
茶道部

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました!
奈教で得たもの

## 表紙のはなし

### ESD子どもキャンプ

表紙の写真は、第3回 ESD 子どもキャンプの一場面です。

奈良町でのフィールドワークを終えて、奈良市立椿井小学校の椿井ホールで、松原成和校長先生からお話をうかがっているところです。ESD 子どもキャンプは大学をフィールドに子ども達と ESD を学び合うキャンプです。ESD 子どもキャンプは、教員に必要な①子ども理解、②先を読む力、③企画力、④ ESD の指導力を身につける機会となっています。

特集

# 奈良教育大学の ユネスコスクール活動とESD

## 奈良教育大学とユネスコスクール

2007年　本学がユネスコスクール認定
2008年　附属中学校がユネスコスクール認定
2008年　8大学でユネスコスクール支援のネットワークを設立（ASPUnivNet）
2010年　世界遺産教育全国サミット開催
2011年　持続発展・文化遺産教育研究センター設立
2011年　ASPUnivNet の事務局を担当（2年間）
2012年　学ぶ喜びプロジェクト開始
2013年　第4回ユネスコスクール全国大会開催
2014年　次世代教員養成センター・ESD 課題探究部門設置
2014年　奈良 ESD コンソーシアム事業開始
2014年　附属小学校がユネスコスクール認定

平成25年度 ESD子どもキャンプ テーマ「あい」

ESD子どもキャンプでのフィールドワーク

附属幼稚園での出張授業

奈良教育大学は、日本で初めてユネスコスクールに加盟した大学です。ユネスコスクールとは、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）が認定する、ユネスコ憲章に則った教育を行っている学校です。現在、日本では、800校以上が加盟しています。その自治体にある小中学校等すべてがユネスコスクールに加盟しているというような自治体もあります。

ESDとは、Education for Sustainable Developmentの頭文字をとったもので、「持続可能な開発のための教育」といわれます。現在の私たちの暮らしは、持続不可能なことが示唆されています。その中で、現在と未来世代の環境・経済・文化・人権・平和などを維持し、公正な社会を築いていくために、私たちの価値観を変え、行動の変革を求める教育がESDです。

2002年に日本からの提案で、「国連ESDのための10年（DESD）」が国連で採択され、ESDの主導機関として、UNESCOが指名されました。また、日本では学校現場におけるESDの推進拠点としてユネスコスクールが位置付けられました。

本学では、ユネスコスクールやESDに関わる活動として、“地域と連携した「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員の養成に向けた、持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト（以下学ぶ喜びプロジェクト）”と、“グローバル人材育成を見据えたESDコンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流によるESDの推進－国際（Think global）と国内（Act local）の融合－（以下奈良ESDコンソーシアム）”の2つのプロジェクトを展開し、次世代教員養成センターに、ESD・課題探究部門を設置しています。また、附属中学校も、ESDに全校で取り組むホールスクールアプローチの実践校として有名です。2014年には、附属小学校もユネスコスクールに加盟しました。

# 平成26年度の活動

本学では、
**学ぶ喜びプロジェクト**と**奈良ESDコンソーシアム**
という2つのプロジェクトが行われています。

## 春 学ぶ喜び・ESD連続公開講座 奈良ASPネットワーク会議

北海道教育大学 野村先生のご講演

第一回ESD連続公開講座の様子

### ■学ぶ喜び・ESD連続公開講座

毎月1回、学級経営や、生徒指導、ESDなどをテーマに講演会を行っています。学級経営や生徒指導では、現場で活躍されている小中学校の先生をお招きし、ご講演いただきます。ESDや教科指導に関して、最先端の教育実践を勉強することができます。

### ■奈良ASPネットワーク連絡会議

奈良ASPネットワークは、奈良市内のユネスコスクールの協力ネットワークのことです。各学校の代表の先生が、毎月1回本学に集まって、各学校の取り組みなどを紹介します。またこの場所には、代表の先生だけでなく、本学の学生も参加し、現場の様子や、夏に行われるESD子どもキャンプの打ち合わせをしたりします。

学生・院生・現職教員の打ち合わせ

**参加者の声**

社会科教育専修 2回生 仲（なか） 孝昌（たかあき）さん

各専門分野で活躍されている先生から様々な理論や新しい知識が得られるだけでなく、現職の教員の方から現場での素晴らしい実践や熱い想いを聞くことができます。先生方とディスカッションをすることもあり、授業だけでは聞けない話を聞くことができます。先生方と仲良くなって教育現場を見学させてもらったり、自身の学びがより深まります。

## 地域のユネスコスクールとの連携活動

### 奈良市中学校合同 生徒会リーダー研修会

奈良市の中学校が11校集まり、合同で生徒会を行いました。「いじめゼロを目指して」や「11校による一斉あいさつ運動」などについて話し合いました。

### 学校間交流

奈良ESDコンソーシアムに参加している、奈良市、橿原市、彦根市、橋本市の小学生が交流する活動を支援しています。

## ユネスコクラブ

### ユネスコ活動とESDの学びを深める団体

ユネスコクラブは2011年に誕生したサークルです。「ESDの行動化を楽しく追求する」「ESDができる教員になる」を目的に掲げ、ユネスコスクール活動や、ESDの勉強を行っています。名古屋大学で行われたESD大学生サミットで発表を行い、優秀賞を受けました。

ESDの10年・地球市民会議2014での発表 国連大学にて

ESD子どもキャンプの準備にて

# 夏 第3回 ESD子どもキャンプ

平成26年度 テーマ「みち」

「ESDを体験的に学ぶ」をテーマに、毎年、夏休みに大学を活動の中心として、奈良市内のユネスコスクールに通う子どもたちを対象にキャンプを行います。キャンパスにテントを張って行う活動は、日本全国でも本学だけでしょう。奈良公園の自然や大学周辺の世界遺産などを活用し、学生が、地域の先生方と協働して、このキャンプを作りあげます。平成26年度は、「みち～あなたとわたしとみちとのであい～」というテーマを設定し、奈良町の文化遺産を通した学習や、地域の良さを発見する活動を行いました。

グラウンドにテント

学内で
キャンプファイヤー

### 企画・参加者の声

英語教育専修 3回生 桑（くわ） 綾香（あやか）さん

学生リーダーの1人として参加しました。このキャンプでの最大の学びは、教育の受け手ではなく、発信者という立場で、考え行動することができるということです。このキャンプでは、ESDとは何か、どのようなプログラムを用意すれば、子どもたちが楽しくESDを学ぶことができるかを試行錯誤し、企画するので、私たちにとってもESDを学ぶとても良い機会です。

### 企画・参加者の声

教職大学院 3回生 竹田（たけだ） 隼也（じゅんや）さん

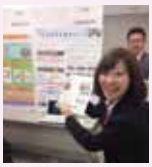
私は今回のキャンプに、企画者の1人として参加しました。これまで、このような大きな企画をしたことがなかったので、失敗の連続でした。しかし、その中で仲間とひとつのものを創りあげる喜びを知りました。この経験を生かして、仲間とのつながりを大切にする教師をめざしたいと考えています。

# 秋

平成26年はDESDの最終年でした。岡山市では世界の教員・高校生によるサミットや、ユネスコスクール世界大会がありました。また、愛知県・名古屋市では世界の閣僚が集まり、これからのESDについて会合が設けられました。

本学では、ユネスコスクール全国大会や、そのサイドイベントに参加したり、奈良ESDコンソーシアムによる教材開発研修などを行いました。

## ■ユネスコスクール全国大会



日本全国には800校以上のユネスコスクールがあります。この大会では、その800校の中でも先進的な取り組みをしている学校が発表を行いました。また、DESDの最終年ということもあり、世界中から注目を浴びた大会でもありました。本学からはESD子どもキャンプについて、学生が発表しました。

## ■教員・学生合同研修会

奈良ESDコンソーシアムの一環として、奈良・和歌山・滋賀で学生と現場の教員が一緒になって教材開発研修を行っています。

平成26年度は、太地町や三井寺、白浜、十津川村、熊野本宮、金峯山寺などを訪れました。

### 参加者の声

社会科教育専修 2回生 米澤（よねざわ） 瑞綺（みずき）さん

岡山駅の中にもESDの掲示があったことや、日本国内だけではなく様々な国から参加者が集まっていたことから、この大会の重要性を感じました。自分よりも歳上の方ばかりが参加しているのかと思っていましたが、開会式では地元の小学生が、分科会では中・高校生が参加しているのを見て、ESDが全世代に関係していることを再確認しました。

### 参加者の声

教職大学院 3回生 島（しま） 俊彦（としひこ）さん

この研修に参加すると、毎回学校現場で働く先生方から刺激を受けます。それは先生方が行く先々で授業に使えるネタを探しているからです。その姿を見る度に「教材開発はこうやってやるんだ」と、大学の講義だけでは学べない実践的な学びを得ることができます。

# 冬

冬には、ユネスコスクールに認定されている大学間の交流を行いました。また、ESD公開勉強会には、海外のユネスコ国内委員の方々に参加していただきました。そして一年間のまとめとして、成果発表会と子どもたちによる子どもフォーラムを開催しました。

## ユネスコ学生交流

ユネスコスクールに認定されている大学は本学だけではありません。この活動では、各大学のユネスコ活動に関わる団体間で学生が交流を行うことで、学生同士のレベルを高めています。平成26年度は、信州大学・玉川大学と交流を行いました。

玉川大学での交流会

信州大学での交流会

## ESD公開勉強会&海外ユネスコ国内委員への奈良案内

ESD勉強会では、講師に日本のESDのトップランナーをお招きし、「ESDにおける教員養成」、「ESDの評価」について勉強会を行いました。海外から来訪したユネスコ国内委員会の方々には、本学の学生が東大寺・春日大社などをご案内しました。

勉強会の様子

海外ユネスコ国内委員の方々と

### 参加者の声

英語教育専修 2回生 **北側（きたがわ） 瑞歩（みずほ）さん**

玉川大学ユネスコクラブとの学生交流を通して他大学の活動を知ることができました。その中でも、学生主導の勉強会は本学でも実施していきたいと思いました。スタディーツアーで訪れた鎌倉では、鎌倉と奈良の大仏の相違点を学ぶことができました。

### 参加者の声

修士課程 英語教育専修 1回生
**泉谷（いずみたに） 忠至（ただし）さん**

国内委員会の方々からの奈良の文化財や文化に関する質問に答える中で、自分の意識したことのない奈良の文化財について学習することができました。奈良の文化、日本の歴史や文化の素晴らしさを再認識しました。また、奈良の案内だけでなく、世界の方々とも交流できました。

## 成果発表会・子どもフォーラム

毎年、2月に学びの成果を発表するために行われています。参加学生がどのような学びを得たのかを共有する発表会です。

子どもフォーラムでは、いろいろな自治体から子どもを招き、自分たちの学びを発表します。ファシリテーター（進行役）として本学の学生が活躍します。平成 25 年度は奈良市、大阪府、福岡県、島根県から、平成 26 年度は奈良市、橋本市の子どもたちが発表しました。

東大寺でのフィールドワーク

学生の進行（本学講堂）

参加した子ども達と

### 参加者の声

社会科教育専修 4回生
**二階堂（にかいどう） 泰樹（たいき）さん**

子どもフォーラムでは、全国の小中学生が自分たちの活動を報告し、それぞれの地域のESD活動を報告していました。私は友人とフォーラムの司会を務めました。発表前には緊張している子どもたちと東大寺を見学しました。子どもたちが交流をしていたことで、このフォーラムがより一層良いものになったと思います。

本学は、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校等の教員を育てることを目的としています。2008年、2009年に、「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」が改訂されましたが、そこには、「ESDの観点」を読みとることができます。ESDの学びは、<体系的な思考力><コミュニケーション能力><問題解決能力><グローバルな思考力><代替案の思考力（critical thinking）><問題の本質を見抜く力><他者と協力して物事を進める力>等を育む力を持っています。それらは、アクティブ・ラーニングとも通じるものがあります。本学のユネスコスクール活動は、2014年の「我が国におけるESDの優良実践事例集（80例）」に選定され、文部科学省から「認定証」をいただきました。ESDの学びを基礎とした教員養成で、豊かな学校づくりの担い手の育成に取り組んでいきます。

http://www.nara-edu.ac.jp/unesco/

加藤久雄 副学長（国際交流・地域連携担当）

# 「ESDの理念にもとづく学校づくり」から「「未来を創る子ども」を育むESD」へ

## ◆附属中学校のESDの特徴

2006年度から2014年度まで、標記の研究テーマを掲げて取り組んできた附属中学校のESDの特徴は、次の2点です。

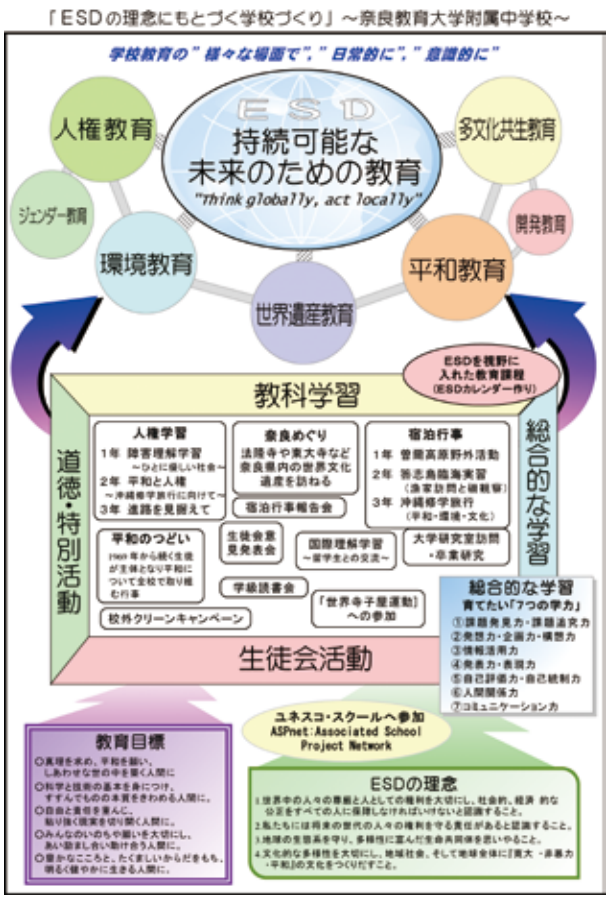
### ①ホールスクールアプローチ

ESDに取り組む学校の多くが環境教育や国際理解教育に特化して展開されているなか、本校は学校の教育課程全体で取り組むESD、さらに言えば生徒会活動や部活動、教育環境などを含めた学校運営全体で取り組むESDを目指してきたことが第一の特徴です。右図はその全体像を示していますが、各学年の教科間、また総合的な学習の往還の様子はESDカレンダーにまとめています。(本校HPに掲載)。

### ②「学校文化」の文脈で取り組むESD

本校が比較的円滑にESDをスタートさせることができたのは、本校の目指す人間像を示した「教育目標」(真理を求め、平和を願い、しあわせな世の中を築く人間に－教育目標の第一) と、ESDの理念 (世界の人々のいのちや尊厳、社会的・経済的公正、文化の多様性や平和を大切にする) が軌を一にするものだと認識できたからです。また2008年7月にはASPnetwork (日本ではユネスコスクールと呼称) に加盟し、本校のこれまでの実践にASPのミッションを重ね合わせて取り組みを進めました。

日々の教科の授業の中で、あるいは総合的な学習の時間の中で、上掲の全体図にある各カテゴリーに関わる実践を行っています。特に各学年で実施する宿泊行事では、環境や人権・平和などの学習を、学級や学年の仲間とともに、先生とともに、答志島や沖縄の方々とともに、「対話」の手法やソーシャルスキルを活かしつつ、本校なりのESDを展開しています。



附属中学校のESDの全体像

生徒会リーダー研修会

教育研究会での公開授業

鳥羽市答志島での漁家訪問

沖縄での班別現地学習

羅針盤

奈良教育大学の取り組み

# 学生の県事業への提案・参加の取り組み
## ～授業の枠を超えて～

**本学では、学生が自主的に様々な企画に参加し、自ら、学びの幅を広げています。以下では、奈良県が実施する平成25年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」に本学の学生が応募、実際に県と一緒になって事業を企画し採択され、平成26年度に事業を実施した本学学生グループの活躍を紹介します。**

「県内大学生が創る奈良の未来事業」は、県内大学生が有する専門分野の知識や新たな視点を活かし、多様化・複雑化する県政の課題を解決するとともに、県内大学生が県政に関わる課題の検討・議論に参加することを目的として、奈良県が平成24年度から実施しているものです。

平成25年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」には、13提案の応募があった中、本学学生グループが見事、最優秀賞・優秀賞を受賞しました。この事業は、提案を評価されるだけに終わらず、学生が主体となって、県の事業に実際に参加できるところが、なにより学生の学びとなり、よりよい経験となっています。

**担当者様より**

奈良県総務部知事公室
政策推進課
課長補佐
**辻（つじ）　祥子（しょうこ）** さん

わずか8分間という短い制限時間でしたが、たいへん密度の高いプレゼンテーションでした。学生の皆さんがこの限られた時間内の発表のために、入念に準備をされ、深い考察を重ねられたことが分かる内容でした。このことは、発表後の質疑応答からもはっきり分かりました。様々な角度からの質問に対して、提案への真剣な思いと共に、的確に回答されていました。審査委員からも、「奈良教育大学の学生がその能力を活かして奈良に貢献しようとする素晴らしい提案だ」とのご感想がありました。

若い感性と専門的な知識が活かされた意義深い提案をいただき、ありがとうございました。

## 最優秀賞　科学の旅 ―シーズンフリーのワンストップサイエンスツーリズム―

奈良県に提案した内容は、奈良を訪れる児童生徒に対して、本学学生が奈良を教材にして学びの好奇心を抱かせるというものです。

例えば、東大寺の大仏がどのように作られたかや、奈良漬を発酵学の観点から解説するなど、奈良をテーマにした科学体験を提供するという内容です。

この提案は、「修学旅行で一度訪れるがリピーターにはならないという奈良県の問題に対して、修学旅行をもう一度考え直そうという着想が非常におもしろい」と評価をいただきました。さらに、県が目指す修学旅行生の誘致にもつながるものとして事業化が決定し、県の地域振興部観光局観光産業課と学生がプロジェクトチームを結成して準備を進めてきました。

平成26年度は、奈良公園のシカに焦点を絞った「科学の旅」を行うことになり、学生はその実現に向けて会議と準備を重ねていきました。

「奈良教育大学にワンストップさせて学びの刺激を与えたい。」「奈良についての『なぜ』を突き詰めることで、奈良のより深い良さを児童生徒に知ってもらいたい。」

そして、平成26年10月15日、『修学旅行コンテンツ「奈良で学ぼう」開発事業』（平成26年度奈良県）として、曽爾中学生を対象にした「科学の旅」が現実のものとなります。

本学と曽爾中学校は連携協定を締結しており、特に理数教育研究センターと10年来の連携実績があります。「科学の旅」は、その関係性をもとに曽爾中学校に参加者を募りました。当日は、生徒10名と教員8名の計18名が曽爾村からやってきました。

奈良公園のシカが子どもたちに与える視覚的インパクトを本学学生が学びの好奇心に発展させ、生徒にワクワクする学びを提供する「科学の旅」の始まりです。

家庭科と理科の学生10数名が、企画から1年半の歳月をかけて、この日を迎えるための準備をしてきました。

当日は、「シカふんでガラスを作ろう」の講義から始まりました。なぜシカのふんからガラスができるのかという疑問を学生が紐解いていきました。そして、ふんを灰にしたものを電気炉にセット。

灰が溶けてガラスになるのを待つ間、奈良公園に移動して「ふん虫調査」「シカの食性調査」「シカの行動調査」を行い、フィールドワークの難しさと楽しさを体感してから再び大学に戻りました。

大学では、実験室や情報館など学内探訪をしたり、天文台で太陽を観察したりして、中学校にはない教育研究環境を垣間見ました。そして、奈良公園で見たシカの生態について講義を受けました。最後に、午前中にセットした電気炉を開けて、シカふんガラスの完成。

こうして、たくさんの学びをお土産にして「科学の旅」が終了しました。

この政策提案では、形骸化している修学旅行の学習に一石を投じ、奈良教育大学の役割もからめて県の観光活性化に向けた取り組みを提案しました。提案のなかには、一般向けの「科学の旅・上級者コース」の構想も入っています。家庭科と理科の協働でスタートしたこのプロジェクトは、平成27年度以降は、幅広い科学を扱う「サイエンスツーリズム」（理数教育研究センター）として引き継がれていきます。

## 平成26年10月15日（水）10:00〜15:00
## 「科学の旅」

**当日スケジュール**

| | |
|---|---|
| 学　内 | ❶ シカふんでガラスを作ろう（講義・電気炉にセット） |
| 奈良公園 | ❷ ふん虫調査<br>—シカのふんであふれない奈良公園の分解者— |
| 奈良公園 | ❸ シカの食性調査<br>—シカが作る奈良公園独特の環境と景観— |
| 奈良公園 | ❹ シカの行動調査 —シカを観察して行動を知る— |
| 学　内 | ❺ 天文台での学習 |
| 学　内 | ❻ キャンパスツアー |
| 学　内 | ❼ シカの生態の学習 |
| 学　内 | ❽ シカふんでガラスを作ろう（完成） |

### 参加者の感想

シカのふんでガラスを作れることを初めて知りました。1,200℃の温度はとても熱かったです。きれいなガラスが作れて良かったです。電気炉に入れて焼き上がるまでに5時間くらいかかることがびっくりしました。（生徒）

❶ シカふんでガラスを作ろう（講義）

❶ 灰をセット

❶ 電気炉にセット

❽ シカふんでガラスを作ろう（完成）

❷ ふん虫調査
❸ シカの食性調査

ふん虫調査では、いつもは大人しい生徒が目をキラキラさせていた。新しい一面の発見となったし、やってみて、その成果を実感できた一時だったと思う。（教員）

❹ シカの行動調査

フィールドワークを終えて

❺ 天文台での学習
（和田穣隆教授）

初めて大きい天文台が見れてよかったです。太陽の黒点が見れてよかったです。（生徒）

❻ 奈良教育大学の中を少し見れて楽しかったです。もっと時間があったら、片っ端から全部見れたのに…と思いました。（生徒）

❼ シカの生態の学習
（鳥居春己特任教授）

シカは可愛いと思うけど、奈良公園に環境変化を与えているんだなぁと思いました。（生徒）

### その他の感想

いつも曽爾に来ていただいているのとまた違い、自分の世界を広げる大切な経験となったと思います。他にはかえられない貴重なものを頂きました。この貴重な経験はきっと生徒たちの中に大きく残るものがたくさんあったと思っております。今後、何とかその芽を伸ばしていけたらと、曽爾に戻りましても頑張っていきたいと思います。（教員）

実施前から、曽爾中学校の生徒たちのことは知っていたので、生徒の反応を想像しながら授業を作りました。当日は、とってもきれいなガラスが、実は鹿の”ふん”からできていることを知ると、子どもたちは一斉に「ええっ!」と反応していました。実際に鹿のふんを見てもなかなかイメージができなかったようです。電気炉から熱々の鹿のふんガラスを取り出した時のびっくりした様子を見て、とてもやりがいを感じました。

物質科学専修4回生 後藤田 洋介
（平成27年度修士課程理科教育専修入学予定）

「科学の旅」のプロジェクトメンバーとして参加させて頂き、知事へのプレゼンなど沢山の貴重な経験を積むことができました。大学の先生や仲間、さらに奈良県庁の職員の方々と、意見を出し合い、話し合いや資料づくりを重ね、時には熱い議論をして政策の事業化に取り組みました。この経験は、現在の教員生活においても様々な場面で生かすことができ、大きな力となっています。

天理高等学校 講師 渡邊 遙華
（平成25年度家庭科教育専修卒業）

「科学の旅」は、修学旅行、奈良の文化遺産、奈良教育大学の先生方や学生や設備、子どもの好奇心等、全て既にあるものを活かした企画です。それらを交わらせる「仕組み」を創るだけで、色んないいことがあります。その仕組みを創ることは、動かすものが多く難しいですが、仕組みを創ることは「楽しくて面白い!」ということを学ばせていただきました。

（株）CONYJAPAN ソリューション事業部
荻 奈津希
（平成25年度家庭科教育専修卒業）

優秀賞

## 大学生による幼児スポーツ教室

このイベントは、12月6日（土）に橿原公苑の第1体育館、翌7日（日）に奈良市中央体育館で実施し、合計160組の親子が参加しました。目的は、幼児期の子どもたちを対象としたスポーツイベントを行うことで、子どもたちが運動を好きになるきっかけをつくることです。

文部科学省の幼児期運動指針（2013）にも「幼児期に運動を調整する能力を高めておくことは児童期以降の運動機能の基礎を形成するという重要な意味を持っている」、「幼児期は、生涯にわたって必要な多くの運動の基となる多様な動きを幅広く獲得する非常に大切な時期である」とあり、幼児期に多様な運動をすることの大切さが示されています。そこで、イベントでは5つのゾーンを設け、子どもたちに様々な運動体験をしてもらいました。

マット運動をする「ゴロゴロゾーン」では、マットに傾斜をつけたり、段ボールでつくった障害物を置いたりしました。「ゲームゾーン」では平均台を使ったゲームとストラックアウト（的当て）をしました。「バルシューレゾーン」ではボール遊びを通した運動プログラムを展開しました。「チャレンジゾーン」では25m走と立ち幅跳びの計測をし、結果はその場でプリントアウトして持って帰ってもらいました。そして、「プレイゾーン」ではホッピングマットや縄跳びを使って自由に運動を楽しんでもらいました。

また、参加した幼児の全ての保護者を対象に、イベントについて16項目の評価アンケートを行ったところ、全ての項目において90%を越す保護者から肯定的な評価を頂きました。イベントは成功裏に終わり、その様子は奈良テレビのニュースで放送されました。

学校教育教員養成課程
身体-表現コース
保健体育専修　4回生
**坂元（さかもと） 尚人（なおと）さん**

担当者様より

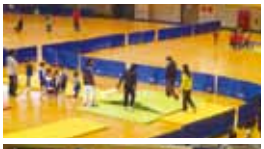
奈良県くらし創造部スポーツ振興課
地域スポーツ支援係
主査
**温品（ぬくしな） 豊永（とよなが）さん**

昨年度から定期的に学生の皆様と打ち合わせを行ってきました。打ち合わせの度に企画案が精度を増していくことに感心していました。私自身、仕事で大学生と共同作業をするのは初めてだったので新鮮でした。当日の教室の活気、幼児の元気いっぱいの姿、そして大学生の皆様の熱意は今でも忘れることができません。

Student's Voice

幼児に指導するのは初めてだったので、上手にできるか不安はあったのですが、子どもたちは落ち着いて私たちの説明を聞いてくれ、ルールを守って、楽しくゲームや運動遊びをすることができました。この2日間で、幼児に応じた声かけや言葉づかいが、指導において大切であるということを学ぶことができました。今回は大変貴重な体験をすることができ、これを今後の指導に活かしていきたいと思います。

学校教育教員養成課程
教科教育専攻
保健体育専修
2回生
**日高（ひだか） 洋祐（ようすけ）さん**



クローズアップ

本学教員の研究を詳しく紹介

# グローバル時代の市民を育てるカリキュラム研究

## 研究テーマに至る背景

私が興味を持っているのは、「国際化、グローバル化といわれる現代において、多様な人々が共に暮らすために、学校でどのような内容を教えるべきか」ということです。このテーマに興味を持ったきっかけは、高校時代の留学経験です。私は、高校2年生の時、交換留学生としてデンマークの高校で1年間過ごしました。その時受けた授業や、留学生としての経験がとても印象に残っています。例えば、1週間の間、全ての教科の時間を使って、自分が興味のあるテーマについて調べて発表するという授業がありました。この授業ではテストはなく、調べたことを工夫して発表しました。絵を描いたり、音楽を演奏した子もいました。今でこそ日本の学校にも「総合的な学習の時間」がありますが、当時の私はこのような授業を受けたことが無かったのでとても新鮮に感じました。「なぜこのような授業をするのですか」と尋ねた私に、担任の先生は「民主主義について教えるためです」と答えて下さいました。この言葉の意味は、当時は分かりませんでしたが、その後、教育を研究する中で次第に考えられるようになりました。もう一つ印象に残っているのはホストファミリーとの生活です。言葉も生活習慣も異なる環境で生活することは簡単なことではありませんでした。時には、ぶつかることもありました。しかし、色々な話をする中で次第に打ち解けることができました。文化や価値観の違う人と共に暮らすことの難しさと同時に、可能性を感じました。これらの経験が

ヨーロッパ評議会で開発された教師用指導書の表紙

韓国での研究報告の様子

イギリスの学校の生徒が作成した公正な貿易（フェアトレード）についてのまとめ

イギリスの学校の生徒が作成した人権についてのまとめ

今の私の研究の原点になっています。

大学・大学院では、グローバル化と教育の関係について学びました。グローバル化とは、人・モノ・情報などが国境を越えて行き交い、様々な領域の問題が地球規模に拡大している事態を指します。例えば、親が仕事を求めて国境を越えて移動し、異なる国の教育を受ける子どもの数が増えるというのもグローバル化の現象の一つです。私は、このような社会の変化に対応した教育とはどのようなものかと考えるようになりました。確かに、英語など外国語を話せるようになることも重要だと思います。しかし、本当にそれだけでしょうか。語学力に加えて、どのような力を子どもたちが身につける必要があるのか、そのために何を教えていけばよいのか、これが私の研究テーマです。

## 研究へのアプローチ

グローバル時代の教育について考えるため、私は、ヨーロッパの教育を研究対象としています。ヨーロッパ評議会という、ヨーロッパ連合（EU）に似た組織があります。この組織は、第二次世界大戦後、教育を含む、人権、民主主義、法の支配の分野で加盟国間の協力関係を拡大することを目指して設置されました。現在は47か国が加盟しています。ヨーロッパ評議会では、広くヨーロッパあるいはグローバル社会に生きる市民を育てる教育（市民性教育）のプログラムをつくっています。これについて学ぶ切り口として、私は、教師が授業を作る時に参考にする主要な資料である指導書・教育計画（カリキュラム）に注目しました。そこには、プログラムの基本的な考え方が表れていると考えたからです。

カリキュラムを分析する中で、ヨーロッパ評議会の市民性教育の特徴としてわかったことを3つ紹介したいと思います。まず、多様な文化を持つ人々が、自分たちの文化を大切にしつつ、共に暮らしていくための力を身につけることが重視されていることです。ヨーロッパでは、移

民労働者が増加し、学校でも多様な文化的背景を持つ子どもたちが共に学ぶようになっています。そのため、自分のアイデンティティを見つめたり、他の文化に対する偏見やステレオタイプを見直すなどの内容が学ばれています。2つ目に、国を超えて支持される人権や民主主義といった共通の価値を学ぶことが重視されています。ただし、これらの価値を押し付けるのではなく、子どもたち自身が話し合いの中から気づいていくような教育方法がとられています。3つ目に、学んだ価値を社会の中で実践することが重視されています。例えば、「あなたは安いバナナと割高のフェアトレード（公正な貿易）バナナのどちらを買うか」といった価値観が対立する問題について話し合い、結論を導き出すような課題に取り組んでいます。

以上のことから、ヨーロッパ評議会では、多様な文化や価値を持つ人々を尊重する一方で、国を超えたつながりを理念と実践からつくることが目指されていると言えます。私は、グローバル時代の市民を育てる上で、この実践から学ぶことは多いと考えています。

最近、私は以上の実践に学びながら、日本の教育実践に活かしていくにはどうすればよいかを模索しています。その一環として、民間教育団体が実施する「地球市民育成プロジェクト（Global Citizenship Project, GCP）」に注目しています。日本やアジアの大学生が参加するこのプロジェクトでは、約半年間にわたり研修を受け、地域で自分なりにできることを探して行動することが期待されています。私は、プロジェクトのワークショップや研修をサポートし、参加者へのインタビューを通して、プロジェクトの中で学んだことを考察する取り組みをしています。

民間教育団体の
地球市民育成プロジェクトの様子

## 今後について

素晴らしいカリキュラムや教材は大切ですが、私は、それらを使って教える教師の存在がより重要だと考えています。そのため今後は、教師を目指すみなさんがどのような内容を学ぶべきかという課題にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。今年は、日本とノルウェーの教員養成課程の比較研究を、ノルウェーの研究者と協力して進める予定にしており、互いの教員養成課程から良い点や課題を学んでいきたいと思っています。


プロフィール

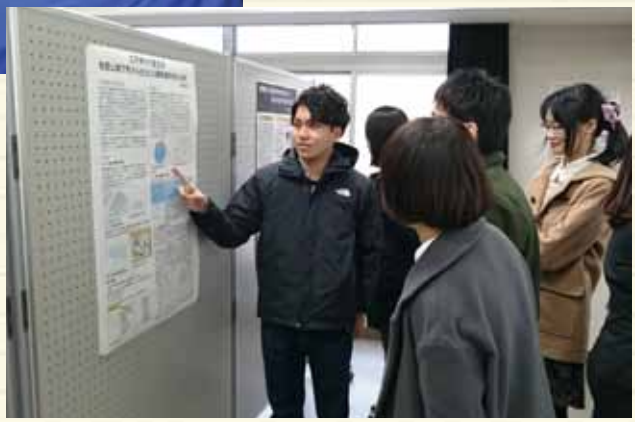
学校教育講座
准教授 橋崎（はしざき） 頼子（よりこ）

専門は、カリキュラム論、市民性教育、国際理解教育。
神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程 修了　博士（学術）。
博士課程在学期間に、イギリスヨーク大学でも1年間研究を行った。日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、2012年より現職。奈良市立富雄中学校評議員など。

# ラボ・レター
## ― 学生による研究室紹介 ―

総合教育課程 文化財・書道芸術コース
古文化財科学専修
（改組後：学校教育教員養成課程
伝統文化教育専攻 文化遺産教育専修）

古文化財科学
## 金原正明（かねはらまさあき）研究室


卒論ポスター発表

From

（左）教育学部 総合教育課程
文化財・書道芸術コース 4回生
**中根 史統（なかねふみと）さん**
奈良市立一条高等学校出身

（右）教育学部 総合教育課程
文化財・書道芸術コース 4回生
**任 虎（にんこ）さん**

## 金原研究室の紹介

私たちが所属している研究室は古文化財科学専修の金原研究室です。金原先生の専門は環境考古学ですが、研究室に所属している学生の研究課題は古環境関係（花粉分析・珪藻分析・動物依存体・種実同定・樹種同定等）から始め、保存科学、博物館教育や近年、話題になっている三次元計測も文化財科学に取り入れています。文化財科学関係を勉強するなら、様々な分野の研究に挑戦するチャンスを与えてくれる研究室であります。また、どんな分野の研究に挑戦しても、学生ごとに指導してくださいます。

## 研究室及び専修の特徴

文化財科学は自然科学諸分野の成果を基礎として、文化財・考古学・伝統文化の分野を科学的に学びます。学習では理論だけではなく、体験・実習を通して五感で感じながら身につけることが大切です。そのため、文化財の宝庫である奈良の地で、年2回以上のフィールドワークが行われています。それらを通して、古墳や植生などについて先生の解説の元に実感することができます。

古文化財科学専修のイベントについて紹介します。年4回程度の懇親会や夏の BBQ、冬の鍋パーティーなどを通して同回生とだけではなく、他の回生とも共同作業を行うことによって親睦を深められるのがこの研究室及び専修の特徴です。

今後、古文化財科学専修は文化遺産教育専修へと引き継がれます。

## 金原先生の研究以外での一面

今年度は本学で金原先生が責任者となり文化財科学会を開催しました。金原先生は自ら率先してイベントをリードしてくださいます。皆との準備、数多くの場面で活動の中心になり、ときどきの懇親会では歌を披露するなど会場を盛り上げてくださいます。また、ティータイムでなんでも相談できることも金原先生の魅力です。先生とコーヒーを飲みながら、学業のことはもちろん、進路や生活面での悩みなども、先生に相談することができます。このように金原先生は研究のご指導以外でも学生との交流を大切にしておられます。

### 卒業論文のテーマ

**『江戸時代の食生活**
**―和歌山城下町から出土した動物遺存体の分析―』**

和歌山県鷺の森遺跡から出土した動物遺存体の同定を行い、当時の食生活の考察を行っています。また同時期の他遺跡との比較を行うことで、当遺跡の特徴を明らかにしようと研究を進めています。

教育学部 総合教育課程
文化財・書道芸術コース 4回生
**杉野 健太（すぎのけんた）さん**
京都府立南陽高等学校出身

ひと・あれ・これ
―活躍する卒業生を紹介―

# 「苦労に見合ったやりがいがある！」

門真市立門真みらい小学校
教諭
福田（ふくだ） 友樹（ともき）さん
（修士課程 教科教育専攻 美術教育専修　2013（平成25）年修了）

私は門真市立門真みらい小学校に勤務しています。本校は3年前の統合により児童数775名を擁する市内最大規模の小学校です。教員になって2年目を迎えた私は今、四年生の担任をしています。子どもの数が多いため、教室を見渡すと机がびっしり並んでいて、冬場暖房をつけなくても暖かいくらいです。子どもたちはたいへん人懐こく元気にあふれており、大変なこともありますが、まわりの先生に支えてもらいながら毎日充実した日々を過ごせています。

教職に就いてからまず実感したのが、「思っていたよりもずっと忙しい」ということでした。多くの奈教生のみなさんも経験されているかと思いますが、私も在学中はスクールサポート制度を利用して、奈良市内の小学校で長らくお世話になっていました。そちらで現場の先生の授業の様子や子どもたちとの関わり方、運動会などの行事に参加するなど、多くを学ばせてもらいました。しかしいざ現場で勤めてみると、そうした授業や行事の背景にある多大な準備、放課後の雑務など、学生時代は知らなかった仕事量の多さに直面しました。それでも、苦労した分は全て子どもたちに還していけることがこの仕事のやりがいであり、醍醐味なのかなと思っています。

私は学校教育教員養成課程の美術教育専修を卒業して、そのまま修士課程の美術教育専修に進学しました。幼い頃から絵を描いたり、ものを作るのが好きだったので、「美術」というのは教員になった際、一つの武器にしたいな、という思いもありました。大学院では、彫塑研究室の故西野愼二教授のすすめで、それまでの具象彫刻から「木製玩具」の制作へ転換を図り、子どもたちが楽しめるような木の玩具の制作と、小学校現場へ持ち込んでの実践を通した研究を行いました。

また、研究室と附属幼稚園が共催した「どろんこワークショップ」では、幼稚園の砂場に3トンの粘土を運び込んで、泥の滑り台、プールをつくりました。泥遊びをする子どもが減っている昨今、園児たちは体中をドロドロにしながら遊びに熱中していました。泥んこタワーや、思い思いの動物を作る園児たちの笑顔は本当に輝いていました。

こうした大学時代の研究や実践からも、大きな苦労に見合った成果や感動が得られたのでした。

教員という仕事において、ものごとに柔軟に対応する力はとても強く求められていると思います。そのためには、様々な経験を積み、フットワークを軽くして新たなことにチャレンジすることが大切です。私の場合は、「美術」というきっかけから様々な活動に拡がりましたが、皆さんが一人ひとり取り組んでいる「なにか」も未来の子どもたちへ還していけるのではないでしょうか。学校の先生は決して楽ではありませんが、とてもやりがいがあります。チャレンジ精神を大切にして頑張ってください！

作品（まゆ玉ころがし）、附属幼稚園での実践

どろんこワークショップ

修了制作（木製ローラー滑り台）、美術科展覧会「青丹彩展」より

After graduation

クラス写真

社会（校区の昔調べ）の教材探しに公民館を訪ねたところ

# 奈教のひみつ

学生広報スタッフ “なっきょん’s CLUB” 企画

## 授業紹介　～初等教科教育法（図画工作）～

竹内 晋平 准教授

本学では、教養科目から専門科目まで数多くの授業が開講されています。
その中から今回は、小学校授業の指導法を学ぶ必修科目「初等教科教育法（図画工作）」の様子を紹介します。
[授業時間割シラバス検索システム：http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/KYOUMU/syllabus.htm]

### 授業の流れ

#### 第1回
**オリエンテーション**

グループでの教材研究

大講義室での授業風景

図画工作科の板書とは…

#### 第2回～第3回
**図画工作科授業論、鑑賞教育論**

図画工作科が小学校の教科として位置づいている意義や、基本的な授業構築の考え方、6年間で育てる資質や能力について学びます。また、鑑賞の授業展開についての学習では、最近のファッション等を例として取り上げて、身近な問題として指導方法を考えます。

ストロー・紙コップを使ったおもちゃの試作

#### 第4回～第7回
**教材研究と試作**

授業を行うためには、十分な教材研究が必要です。グループで話し合ったり実際に作品を試作したりしながら、どんな指導・支援が必要になるのかを考察します。今回の「初教法（図画工作）」では、水彩絵の具で「謎の生き物」をえがいたり、ストロー・紙コップを使ったおもちゃを作ったりしました。

#### 第8回～第10回
**学習指導案・模擬授業の検討**

教材研究を通してえられた指導目的・内容・方法を文章として記述します（学習指導案）。図画工作科教科書を参考にして、さらに詳細な指導について検討を重ねます。グループで行う模擬授業に向けて、協力しながら参考作品や板書で使用する掲示物を作ります。

図画工作科教科書を参考にしながら模擬授業の検討

大講義室・全体での意見交流

### どんな授業？

小学校教員免許状を取得するための必修授業科目です。この授業では、図画工作科の特性からみた指導法だけでなく、学習指導案の書き方・板書の方法・発問や子どもの意見を全体に生かす方法なども学びます。扱っているのは図画工作科が中心ですが、それを通して「一斉指導とは何か」ということについて考える機会を提供しています。

そして授業の中では「描くこと・作ることだけが美術的活動ではない」ということを強調しています。私たちの日常、特にファッションの領域では「服の色を選ぶ」「髪の形をつくる」という大切な美術的活動があります。好きな形や色を取り入れて、楽しい生活を送ることができる大人になってもらうことも、図画工作科がねらいとしている最終的な目標かもしれません。この授業でもそのような価値を受講生のみなさんと共有することを目指しています。

- 授業時間:90分
- 大講義室で110人程度の受講生
- 2回生時(初等)の必修授業

### 受講生の声

写真左:教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 理科教育専修 2回生
**新 真緒(あたらし まお)さん**
奈良県立青翔高等学校出身

写真右:教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 理科教育専修 2回生
**鷲見 寧子(すみ やすこ)さん**
私立浦和明の星女子高等学校出身

竹内先生の授業では作品を作って相互評価をしたり、正倉院展でフィールドワークを行ったりするなど、座学以外の活動を多く行いました。一番印象に残ったのは、正倉院展に展示してありそうな「謎の生き物」の水彩画を描く活動です。

実際にはいない生き物を想像し、絵に表すことで、子どもと同じ視点に立って活動をみることができました。例えば、絵を描き続けていると、失敗してしまったり集中力が途切れてしまったりする場面があります。そんなときにどんな声掛けをすればいいか、どのような支援をしたらやる気を引き出せるのかを考えることができました。この授業を通して、学習指導要領を読むだけではわからなかった図画工作を指導する上で大切なことを学べました。

## 第11回~第14回

**模擬授業の実施と考察**

各グループが4週にわたって15分程度の模擬授業を行います。扱うのは題材の「導入」部分ですが、黒板や書画カメラを使って学習のねらいを伝えたり、技法についての指導を試みたりします。模擬授業後は授業者、児童役、それぞれの立場から批評を行い、自身の授業に取り入れたい点や改善点について話し合います。

## 第15回

**総　括**

半年にわたって学んできた「初教法(図画工作)」もいよいよ最終回です。すべての児童が、形や色に関するよさや美しさを感じることができる授業を展開することができるような、指導のあり方について考察します。この総括を通して、15回のまとめを行います。

### 受講生の声

教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻
美術教育専修 2回生
**檜垣 直(ひがき なお)さん**
兵庫県立北摂三田高等学校出身

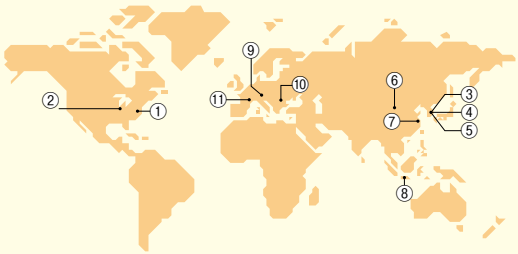
私はこの講義を通して、図画工作科における「表現」や「鑑賞」の活動の中で引き出される児童の関心・意欲を高める工夫について多くの学びを得ることができました。この講義では、図画工作科という教科の根本のあり方から学習指導要領の内容、具体的な授業の展開方法とその指導方法といった幅広い内容を学び、模擬授業を行います。模擬授業を通して様々な視点から授業を研究し、児童の学ぶ意欲を高める指導の在り方を探る内容となっている為、知識の習得と実践の双方が充実した授業になっていました。また、実技作品や鑑賞レポートといった課題は私たち自らが制作することによって児童と同じ目線で図画工作を捉えることができました。私自身、美術は得意ですが、図画工作科は「美術の教育」ではなく「美術による教育」であるため、美術のスキルとは別の「図画工作科のスキル」が必要とされます。そういった私たちがこれから迎える教育の現場で必要とされる多くの知識、体験をこの講義を通して学ぶことができました。

### 担当教員より学生へのメッセージ

みなさんが小学生のころ、はじめて絵の具セットを手にした日のうれしさを思い出してください。緊張しながらはじめて彫刻刀にさわった日の授業を思い出してみてください。今でも図工室にいる子どもたちの笑顔は、ワクワクやドキドキでいっぱいです。

私が担当している授業科目「初等教科教育法(図画工作)」では、教員を目指すみなさんと楽しい授業をつくるための方法を考えています。まずは、自分自身が楽しいと感じることを教材研究の中から見つけ、それをどうやって子どもたちに伝えるのかについて、いっしょに考察していきましょう。みなさんの受講を待っています！

# 留学生レポート




## Interviewee

学校教育教員養成課程
身体・表現コース音楽教育専修4回生
大阪府立三国丘高校出身

**嶋田（しまだ） 萌花（もえか） さん**

ハイデルベルク大学（ドイツ）
（留学期間　2014.9～2015.7）

食堂にて

哲学の道へ散歩に行きました

### 留学をしようと思ったきっかけは。

ドイツ歌曲を中心に声楽を学んでおり、ドイツの音楽を現地で学んでみたい！ドイツ語をもっと深めたい！と思い留学を決意しました。また、自分の母語が通じない土地で生活することにチャレンジしたいという思いもありました。

### 留学する前にどのように語学の勉強をしていましたか。

1、2回生の間に週1回のドイツ語の授業を受け、3回生のときと4回生の春は自分で参考書を使って勉強していました。しかし、基礎的なことしか学ぶ余裕がなかったので、留学してからもっと勉強してこれば良かったと後悔したこともありました。

### 留学先ではどのように過ごしていますか。

午前中は毎日語学コースがあり、ドイツ語を勉強しています。午後からは週に3つ音楽の授業をとっていますが、自分の専門の声楽のレッスンなどがないので、空いた時間にピアノのある場所で声楽の練習をしています。ピアノのある場所は限られており、自分以外にも使いたい人がいるので毎日は練習できません。

### 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

ドイツで生活する中で、日本の正確さや接客の素晴らしさに気づきました。

日本ではお客様が第一という考えですが、ドイツはそうではなく、店でお客さんが並んでいても時間が来たら自分の仕事を終えるなど、融通がきかないところもあったので、はじめのうちは不便に感じたり、不満に思ったりすることもありました。

### 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

言葉や自分の感情を伝えることが大変でした。ドイツ語や英語でうまく伝えられないときがたくさんあり、それがよくストレスになっていました。

### 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

ドイツで生活し、ドイツ語も身につけたことを生かして、将来はドイツあるいは国際関係の仕事をしたいと思っています。可能ならばドイツで、働きたいとも思っています。

### 在学生、高校生の皆さんに一言。

留学を決めることは簡単なことではありませんし、私も留学することを決意するまでに時間がかかりましたが、本当の自分を発見できたり、世界や他の国の人々が日本をどう思っているかなどを知ることができたり、必ず良い経験ができます。辛いこともありますが、それが自分の強みとなります！

8月の語学コースのクラスメートとチューターさんです。最後の授業の日にカフェに行きました

10月からの語学コースのクラスメートと先生です。教会を訪れたときの写真です

ハイデルベルク大学（ドイツ）

本学の国際交流協定校の一つであるハイデルベルク大学（1993年4月交流協定締結）は、ドイツ最古の歴史を持つ大きな大学です。世界各国からの留学生も多く、様々な国の人と出会うことができます。またハイデルベルクは「大学生の町」とも言われ、古い建物や城、博物館、劇場もある文化的、歴史的な町です。今回は本学からハイデルベルク大学へ留学している嶋田萌花さんと本学に留学しているアイク サラさん、ハーゲル アネカトリンさん、ツェントラー クリスティーナさんに話を聞きました。

日本の居酒屋も体験しました

## Interviewee

ハイデルベルク大学（ドイツ）

左：**アイク サラ** さん
日本／奈良教育大学
（留学期間 2014.10 ～ 2015.8）

中：**ハーゲル アネカトリン** さん
日本／奈良教育大学
（留学期間 2014.10 ～ 2015.3）

右：**ツェントラー クリスティーナ** さん
日本／奈良教育大学
（留学期間 2014.10 ～ 2015.8）

### 留学をしようと思ったきっかけは。

日本語の勉強を始めてからずっと留学することを希望していました。ですから、2年生になって申込みができるようになった時、ためらわずに応募しました。

### 留学する前にどのぐらい日本語を勉強していましたか。

大学で、留学する前に二年間ぐらい日本語を勉強していました。2012年10月～2014年8月までした。

### 奈良教育大学の学生としてどのように過ごしていますか。

奈良教育大学では、普通の朝は三人で大学に歩いて行って、授業を受けます。授業が終わった後で食堂で昼ご飯を食べます。昼休みの後もう一度授業に出ます。時々修了レポートの本を探すため、図書館に行きます。それに一週間一回、サークル活動をします。ハイデルベルク大学では、ケーキを食べながら長い時間食堂で過ごしましたが、ここではできないので残念です。

### 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

パーティーの終わり方です。日本では終わりが8時だったら、ちょうど8時に終わりにして、みんなはすぐに帰ります。例えば、秋季懇談会をした時、初めてこのようなパーティーを体験しました。ドイツでもパーティーの終わり時間があるけど、そのあともゆっくりおしゃべりしてみんなは自然に帰ります。ドイツでは始まりの時間は気にしますが、終わりの時間はぜんぜん気にしません。

### 留学中一番うれしかったことは何ですか。

私たちにとって一番うれしかったことは奈良で行われているイベントです。例えば、若草山焼きは本当に印象的でした。それに日本のお正月はドイツと比べたら、ぜんぜん違っていて、文化的な経験になりました。日本のお正月は一般的にとても静かだと思います。ドイツではお正月に花火があってとてもにぎやかです。

### 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

この留学で体験したことは私たちの将来にとって有益なものだと思います。例えば、将来、日本の会社で働く場合、日本人の考え方を理解できることは役に立つでしょう。

### 日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

留学生活は楽しくて、面白い経験になります！みなさん、ぜひ留学してみてください。

琵琶湖への学習旅行で

奈良の鹿とわたし

きれいなもみじの下で

キャンパスで輝く学生を紹介

# キラリ奈教生

バイク競技中

**Profile** プロフィール

教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 保健体育専修 1回生

加後（かご） 美咲（みさき） さん

ランニング競技中

アジア選手権でチームの仲間たちと

## 世界レベルでトライアスロンに取り組む 加後 美咲さん

保健体育専修 1 回生の加後美咲です。チームケンズ京都というトライアスロンチームに所属しています。トライアスロンを始めたのは中学 1 年生で、今年で 8 年目になります。

### トライアスロンを始めたきっかけは？

チームの監督に出会って、トライアスロンに挑戦してみないか、と声をかけて頂いたことがきっかけです。3 歳からずっと水泳をしていて、小学校では陸上部に入って走っていました。トライアスロンのことを全く知らなかったのですが、とりあえず挑戦してみようと思い、始めました。

### これまでの実績は？

中学 2 年生のときにトライアスロンの全国大会で優勝しました。高校 2 年生のときに初めてジュニアのアジア選手権、世界選手権に出場しました。アジア選手権では 4 位、世界選手権ではレース中に落車してしまい、35 位という結果でした。大学に入ってからはジュニアのアジア選手権で 8 位、日本学生選手権（インカレ）で 3 位、日本選手権 13 位という結果でした。

### トライアスロンをやっていて楽しいこと、辛いこと、得られたことは何ですか？

レースで良い結果が出せたり、順位がよくなくても自分の納得のいくレースができたりしたときはすごく嬉しいし、トライアスロンをやっていてよかったなと思います。また、外国人の選手とレースを一緒にすることもあり、言語や人種を超えてスポーツを通してたくさんの人と関わり合えることはすごく魅力的です。結果が出ないときや、練習がハードなときは辛いと思うことがありますが、これを乗り越えたらきっとまたいいことがあると思って、きついことにも耐えています。

### どのくらいトライアスロンの練習をしますか？

授業の時間割によって変わるときもありますが、だいたい週に 5 ～ 6 日練習しています。3 種目を続けてやる感覚を大切にしているので、一日の練習でスイム、バイク、ラン全てを行います。

### 奈良教育大学に入学しようと決めた理由は？

教師という仕事に興味があり、教師になる勉強ができる大学に行きたいと思っていました。トライアスロンの関係で何度か奈良教育大学に来ることがあり、学生さんと話をしたり、雰囲気を感じて、ここの大学で学びたいなと思い、入学を決めました。

### 奈良教育大学のいいと思うところはどんなところですか？

人数が少ない分、学生同士の関わりが深く、フレンドリーな雰囲気なので過ごしやすいです。学内に鹿がいるのが当たり前で、そんな和やかな環境が私はすごく好きです。

### どんな先生になりたいですか？

私はスポーツを通して、何事も諦めずに頑張ることの大切さや、仲間の存在の重要さを学びました。こうした、人として生きていく上での教訓を運動やスポーツを通して子どもたちに伝えていきたいです。

### 在学生や高校生へひとことお願いします

奈良教育大学はすごく和気あいあいとした雰囲気で、とても過ごしやすいです。是非、わたしたちと一緒に楽しいキャンパスライフをすごしましょう。

課外活動紹介

# ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属10団体、体育会所属26団体のクラブがあり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。
今回は、茶道部です。

**文化会**
- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会) すぎのこ
- 書芸部
- 地歌箏曲部
- 現代視聴覚文化研究会

**体育会**
- 合氣道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

[学生団体・クラブ紹介] http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/

pick up

## 茶道部　部員数24名

現在の部員は1回生2名、2回生7名、3回生3名、4回生7名、院生1名、留学生4名の計24名。普段は、部員一人一人がお点前や作法を学ぶために目標をもって稽古を行っています。夏ごろになると、毎年輝蔓祭（大学祭）で茶道部が開く「秋風茶会」に向け、お点前の稽古に加え、着物の着付けの稽古も行っています。

普段の練習風景です。お点前の稽古をするときは、先生が丁寧に指導してくださいます。

毎年1月に行っている「初釜」という行事の写真です。薄茶やお菓子以外にお雑煮やおせち料理などをふるまいます。

秋風茶会にて、茶室前での一枚。着物をうまく着ることができました。

### 一期一会

教育学部　学校教育教員養成課程
教科教育専攻　理科教育専修　2回生
奈良県立青翔高等学校出身
茶道部　部長
**新　真緒（あたらし　まお）さん**

茶道には様々な流派がありますが、我が茶道部では裏千家という流派のお点前や作法を講師の佐久間宗成先生のご指導の下で学んでいます。茶道と聞くと敷居の高いイメージを持つ方もおられるかと思いますが、我が茶道部は部員一同和気あいあいと楽しく毎週水曜日の放課後に活動しています。

茶道部の主な活動はお点前の稽古です。お点前には様々な難易度があり、使う茶道具等も違います。茶道部の稽古では、部員一人一人のレベルに合った難易度のお点前を練習することができます。したがって、入部したときは初心者であった人も、稽古を続けていくと難しいお点前にも挑戦することができるようになります。このように、茶道部の稽古を通じて自分の成長に喜びを感じることができるので、部員はそれぞれ違う目標をもって毎週稽古をしています。

輝蔓祭では毎年「秋風茶会」というお茶会を開き、今までの稽古の成果をお茶会に来られたお客様に見ていただいています。夏休みには、お茶会に向け、お点前の稽古の他に着物の着付けの練習を行います。そしてお茶会当日、部員は着物を着てお客様をもてなします。このように、お点前や作法だけではなく着付けについても学ぶことができます。

茶道には「一期一会」という有名な言葉があります。一期一会とは、人との出会いを一生に一度のものと思い、相手に対し最善を尽くすという意味です。普段の稽古やお茶会を通して、部員や講師の先生、お客様との出会い、煌びやかな茶道具との出会いは一期一会の精神にあるものだと実感します。茶道を通して相手に対し最善を尽くせるように、これからも一期一会の精神のもと、部員一同稽古に励んでいきたいと思います。

## 活躍する奈教生

### 文化系

**栗原（くりばら） 綾乃（あやの）さん（大学院1回生）**
- 第19回全日本高校・大学生書道展「書道展大賞（漢字部）」【(社)日本書芸院・読売新聞社】
- 第61回日本学書展「文部科学大臣賞（高等学校生徒・大学生 漢字）」【奈良県・奈良市・奈良県教育委員会・奈良市教育委員会】

**木村（きむら） 佳史（よしふみ）さん（教育学部3回生）**
- 第19回全日本高校・大学生書道展「書道展大賞（かな部）」【(社)日本書芸院・読売新聞社】
- 第61回日本学書展「奈良県知事賞（高等学校生徒・大学生 仮名・漢字仮名交じり）」【奈良県・奈良市・奈良県教育委員会・奈良市教育委員会】
- 2014年度ふくやま書道美術館所蔵品臨書展「奨励賞」【ふくやま芸術文化振興財団】

**友田（ともだ） 麻衣子（まいこ）さん（教育学部4回生）**
- 第16回「万里の長城杯」国際音楽コンクール ピアノ部門・大学の部「第3位」【中国音楽理事会】
- 第27回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会 ピアノ部門　大学生の部「第3位」（1位2位該当者なし）【(社)全日本ピアノ指導者協会】

### 体育系

**SAYARATH（サヤラット） Phonenaly（ポンナリー）さん（大学院2回生）**
- 第27回東南アジア競技大会　柔道52kg級「優勝」（大会3連覇）

**加後（かご） 美咲（みさき）さん（教育学部1回生）**
- 2014アジアジュニアトライアスロン選手権「第8位」
- 日本学生トライアスロン選手権（インカレ）「第3位」
- 日本トライアスロン選手権「第13位」

**速報** 3月4日に学生表彰式を開催し、学長表彰6名と1団体、学生委員長表彰17名と3団体を表彰しました。

学長表彰者一同

9月25日

協定書に署名後、握手する
長友学長（左）と岩崎町長

## 平群町と連携協力に関する協定を締結

相互に連携協力することにより、教員の資質向上及び大学における教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応し、双方における教育や研究の充実・発展並びにまちづくりの充実・発展に資することを目的に、平群町と協力協定を締結しました。

これまでにもすでに、学校現場への学生派遣などを行っていますが、今回の協定締結により、より一層の連携協力が期待されます。

10月8日

大豊作に喜ぶ留学生ら

## 国際交流イベント「奈良実習園で稲刈り体験！」を開催

留学生と日本人学生が交流しながら日本の文化に触れる国際交流イベントの一環として６月に実施した国際交流イベント「田植え体験」で、留学生と日本人学生が植えつけた稲を収穫しました。

まず、箕作准教授より日本の米作りについて講義を受けた後、実際に鎌を持って収穫に挑みました。大きく成長した稲の姿と収穫作業の楽しさに、参加者からは歓声が上がっていました。

10月29日

ほうきや鎌を手に清掃に向かう参加者

## クリーンキャンペーンを実施

爽やかな秋晴れの下、学内環境美化を目的としたクリーンキャンペーンが実施され、約650名の学生・教職員が参加しました。

参加者は、鎌やほうきを手に、草刈りや溝掃除、ゴミ拾いなどを行い、普段お世話になっている大学構内をきれいにしようと、汗を流しながら学内清掃に取り組んでいました。

11月7日

水茎焼きの陶作体験

## 留学生日帰り学習旅行を実施

日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、協定校交換留学生の 27 名が琵琶湖、近江八幡に日帰り学習旅行に行きました。

この学習旅行では、日本最大の湖「琵琶湖」の自然、近江八幡の伝統的な街並み、陶芸体験、俳句作りなどから日本文化を体験学習し、様々な学びを得た一日となりました。

11月8日

「ひまわりオイル」が搾油される様子

## ひまわりオイルプロジェクト「収穫祭」を開催

塩害被害を受けた岩手県陸前高田市に、震災後、たくさんの人がひまわりを咲かせました。ボランティアサポートオフィスでは、陸前高田市の人々の思いが詰まった「ひまわりの種」を奈良県内の人々と共に大切に育て、咲いたひまわりから種を収穫し、その種から「ひまわりオイル」を搾油する「収穫祭」を開催し、約 50 名が参加しました。

参加者は、ひまわりの種から搾油される様子を見守りながら、ひまわりを育てる上で楽しかったことや苦労したことを共有し、これまでの活動を振り返っていました

11月26日

消火器訓練を行う学生・教職員

## 避難誘導訓練を実施

授業時間中に大規模地震が発生したことを想定し、講義室からグラウンドに落ち着いて避難できるようにすること、将来教員となる学生が児童等を避難・誘導させる際の対処方法を体験することを目的とした、学生・教職員対象の避難誘導訓練が実施されました。

避難完了後には消火器訓練の実施、さらに煙発生装置を使い火災で発生する煙の恐ろしさを体験し、参加者は災害に対する備えの重要性を再確認していました。

# 附属学校園ニュース

［附属学校園］http://www.nara-edu.ac.jp/guide/garden.html

## 附属中学校 10月25日

### 教育研究会の報告

県教育委員会及び市教育委員会のご後援のもと、「「未来を創る子ども」を育むESD」を主題とする教育研究会を開催しました。2014年は「国連ESDのための10年」の最終年でしたが、2006年度からESDを教育実践の中核としてきた附中でも一つの区切りとする研究発表をしました。県内外から約300名の参加があり、公開授業、「卒業生ESDの10年を語る」、多田孝志氏、田渕五十生氏、丸山英樹氏、吉田敦彦氏によるシンポジウム、本学の小柳和喜雄教授によるICT講演会等、盛り沢山の内容で実り多い会となりました。

また10月には岡山大学でのユネスコスクール世界大会や奈良市での世界遺産学習全国サミットで、生徒・教員が分科会発表をするなど、様々な場で附中の取り組みを発信することができました。

## 附属小学校 10月27日

### 林業を学びに川上村へ（4年生の遠足）

社会科で奈良県の産業学習をしている4年生は、10月に、500年の歴史をもち、昔から良質のスギ・ヒノキを産出している川上村（奈良県吉野郡）の林業を現地で学びました。学校からバスで約2時間、吉野川の上流域にある川上村の森林組合の大辻さんから林業の実際について話を聞きました。今、植えつけた苗木が伐採されるのは次世代や次々世代以降になるという話や、切り株の年輪の数を数えて200年以上前の人が植えた木であることを確かめたりしながら、林業は実に気の長い仕事であるということに子どもたちは驚いたり感心したりしていました。

## 附属幼稚園 12月2日

### 獣医さんと一緒に「うさぎの勉強会」

幼稚園で飼育しているうさぎは、子どもたちの涙を止めてくれたり、子どもたちの心を癒やしてくれたりする貴重な存在です。子どもたちは、うさぎに草をあげることや、うさぎ当番をすることが大好きです。そんなうさぎについて、本学の自然環境センター研究部員でもある獣医さんに来ていただき学ぶ機会をもちました。うさぎの食べ物を聞いたり、抱っこのしかたを教えてもらったり、年長児は聴診器でうさぎの心臓の音を聴かせてもらったりし、命あるものへの愛情をより深めることにつながったと思います。今回は、保護者向けにもうさぎの飼育の意味や動物と人間の関係などについて話してもらい、親子にとっての良い経験となりました。

# 奈良に息づく仲間たち

［自然環境教育センター］
http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/

自然環境教育センター
准教授 辻野 亮（つじの りょう）

## 金色の森

春になると生き物が動き出す。森も緑の勢いを強めてくる。大学から東に見える高円山にはどんぐりをつける落葉樹が多いので、冬が終る頃には萌黄色の新葉が開いて春の訪れを知らせてくれる。落葉樹林がすっかり春を迎えた頃、春日山の照葉樹林でも春の衣更えが行われているのに気が付いただろうか。

春になればどんな人でも衣更えをする。いつまでたっても去年のままということはまずない。見過ごしてしまいそうでも自分と周りに大きな変化が起きているはずだ。落葉樹林の劇的な変化の後になってしまうために見過ごしてしまいそうだが、人の場合と同じで、春を迎えた春日山は大きな衣更えをしているのだ。

一年中緑の葉っぱを着け続ける照葉樹林も新しい葉を開く季節がある。4月の終わりから5月のはじめごろ、春日山に多く生えているコジイは葉と花を樹木全体に展開する。普段目にする照葉樹林のテカテカ光る濃い深い緑の葉ではなくて、金色に輝く葉と花を身にまとうのだ。この時、春日山は全体に光り、周りの若草山、御蓋山、高円山からは隔絶される。しかしながら、ほんの一瞬の衣更えの時期を過ぎると、春日山はまた普段通りに戻ってしまう。

ではいつ葉を落とすのだろうか？

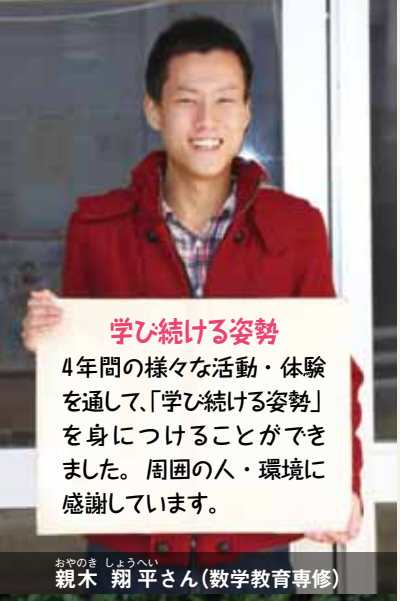
▲左から若草山、御蓋山、春日山、高円山

# 奈教生に聞きました！

vol.13

## 「奈教で得たもの」

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。今回は、卒業される皆さんにこの奈良教育大学で過ごした日々を振り返っていただき、何を得ることができたのか聞きました。



**学び続ける姿勢**

4年間の様々な活動・体験を通して、「学び続ける姿勢」を身につけることができました。周囲の人・環境に感謝しています。

親木（おやのき） 翔平（しょうへい）さん（数学教育専修）

**人との出会い**

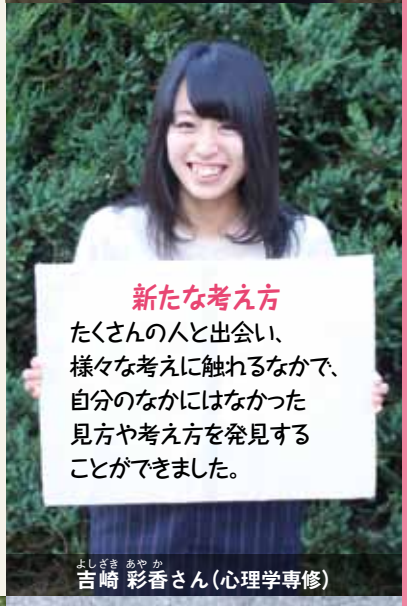
友達、先生方、先輩後輩、＋子どもたちなど、たくさんの人との出会いがありました。今の自分、これからの自分があるのは素敵な方々との出会いのおかげだと思っています。

安本（やすもと） 汐里（しおり）さん（心理学専修）

**自分と向き合うこと**

大学４年間で、卒業論文のテーマ、就職活動、教員採用試験などを通して自分と真剣に向き合い選択するということを学びました。

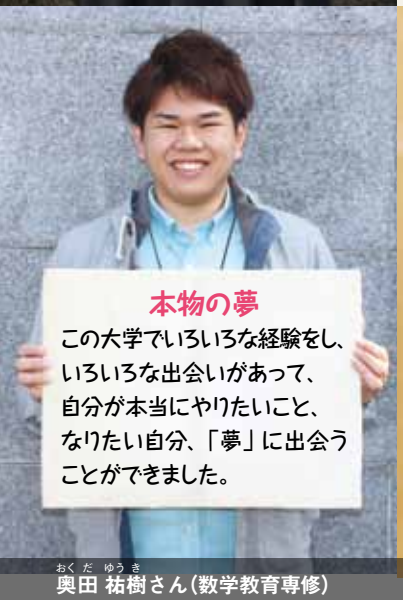
土谷（つちたに） 梨沙（りさ）さん（心理学専修）



**新たな考え方**

たくさんの人と出会い、様々な考えに触れるなかで、自分のなかにはなかった見方や考え方を発見することができました。

吉崎（よしざき） 彩香（あやか）さん（心理学専修）



**本物の夢**

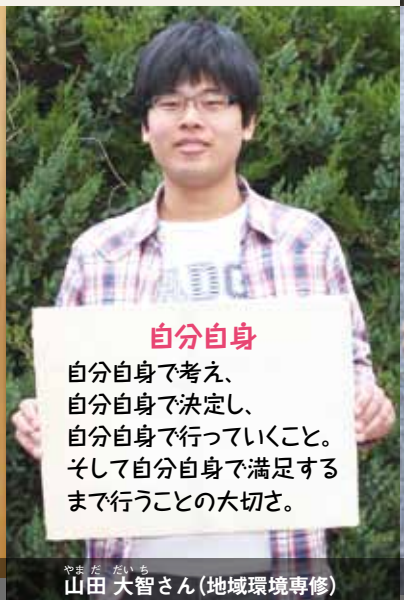
この大学でいろいろな経験をし、いろいろな出会いがあって、自分が本当にやりたいこと、なりたい自分、「夢」に出会うことができました。

奥田（おくだ） 祐樹（ゆうき）さん（数学教育専修）

**自分が本当にやりたいことをする勇気**

教師を目指して奈教にきましたが、卒業後は新たな夢を叶えるため全く違う道を進むことになりました。奈教での学び、経験、全てのものが私に一歩踏み出す勇気をくれました。

浦山（うらやま） 舞（まい）さん（英語・国際理解教育専修）



**自分自身**

自分自身で考え、自分自身で決定し、自分自身で行っていくこと。そして自分自身で満足するまで行うことの大切さ。

山田（やまだ） 大智（だいち）さん（地域環境専修）

**これからも自分を支えてくれるつながり**

少人数だからこそ、いろいろな専修、部活の人とも関わることができ、「私も頑張ろう!」と何度も思わせてもらいました。

濱田（はまだ） 茜（あかね）さん（特別支援教育専修）

弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。
QR コード対応の携帯電話にて
アンケートにご回答いただけます。
皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

なっきょん's CLUB

広報誌づくりなど、広報活動をお手伝いいただける学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は総務企画課秘書・広報担当まで、お気軽にお問い合わせください。

国立大学法人 奈良教育大学

**奈良教育大学 広報誌『ならやま』**
第48号　平成27年3月20日　編集／広報委員会　発行／国立大学法人奈良教育大学
3月・7月・10月各下旬発行
〒630-8528 奈良市高畑町　TEL.0742-27-9104　FAX.0742-27-9141　Email : kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp
**※広報誌「ならやま」は大学ホームページからもご覧いただけます。**
http://www.nara-edu.ac.jp/

■ 大学ホームページでは、わかりやすく迅速に情報を発信しています。ぜひご覧ください
■ Facebookで最新情報発信中!　https://www.facebook.com/NaraUniversityOfEducation

国立大学法人奈良教育大学 | 検索